

一般質問発言通告書

発言順位	2番
------	----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 6年 11月 26日

三島市議会議長 堀江 和雄 様

三島市議会議員 1 番 秋山 恭亮

質問事項 1	三島市のDXについて
具体的内容	令和5年度の11月議会において三島市のDXの取り組みについて、今年度の9月議会において、三島市のDX基本方針について伺った。答弁により、三島市はノーコードツールを活用し先進的に業務のDXに取り組んでいることがわかった。また市民サービスにおいても、DXを推進して様々な角度から利便性の向上を図っていることが分かった。「行かない」「書かない」「待たない」市役所の実現に向け取り組んでいる一方、DXにより利便性・効率性を上げるだけではなく、効率化した結果、高齢者などのデジタル弱者や、直接職員との対話により問題解決をしたい市民などへの対応もより充足していただきたいと要望させていただいた。以上を踏まえ、三島市のDXについて現状の詳細と今後の取り組みを伺う。
1	情報システムの標準化や庁舎の移転にむけて、仕分け・整理はできているか。進捗を伺う。また標準化にむけたベンダー（DX担当事業者）の見解と対応について伺う。
2	総務省がレポートで指摘した「2025年の崖」問題について。基幹システムは何年くらい使っているか。基幹システムの中のレガシーシステムで今後変えていかななくてはならないものはあるか、その移行時期やスケジューリングはできているかを伺う。
3	令和6年度のDX人材育成状況、特に3市1町で行ったノーコードツール活用の研修について伺う。
4	職員が業務の中で感じた問題をDX活用により解決し試用するような体験を得ることはDXの推進に大きく寄与すると考える。実際の業務に即したアプリ開発の研修実施は考えられるか。
5	公共施設利用のDXについて、現状を伺う。新庁舎の運用なども見据えた中で、今後の事業についての質問と提案を行う。
質問事項 2	三島市のロケ誘致、パブリシティの増大、その後のリソース化について伺う。
具体的内容	令和5年度2月議会の私の一般質問において、三島市がロケ地となり、テレビや映画などのメディアに出ることを推進する質問・提案を行った。三島市当局としても、メディアに無償で出ることができ、宣伝効果が高く上がることを歓迎していること、また一定の対応もしていることが分かった。今年度に入り、三島市のメディア露出は増大しているように感じている。女性アーティストのプロモーションビデオの撮影や、市内のグルメを回る番組などが記憶に新しい。今回はさらにロケを呼び込み、ロケを観光や市内活性の資源として活用する仕組み作りについて、現状と今後の取り組みを伺う。
1	三島市ではロケツーリズムの研修を担当職員が受けている。先日研修の講師を三島市に招き、市長・副市長や関係課長と内容の共有を図ったと認識している。研修の内容・事業化した場合の実施効果について伺う。
2	ロケ呼び込みと観光・市内活性の資源化について、どのような仕組み作りを想定しているか伺う。また、この仕組み作りにおいて重要だと考えるところはなにか伺う。
3	実施し軌道に乗った場合、ふるさと納税・観光客誘致・移住促進・市内活性化など考える効果を伺う。併せて、先進地での実例を伺う。
4	この実現と継続は行政のみでは困難だと考える。市民や民間団体に求めることや協力してほしいことについて伺う。
5	仕組み作りのスケジュール・費用・必要人員・市役所内の他課への共有と協力体制について伺う。また国等の補助金を活用できる見込みはあるか伺う。